

収穫感謝祭主日礼拝

《主日朝礼拝式次第》

【入祭の部】

前奏(黙禱)
「刈り入れの主を」(讃美歌21の387番)
蒔田尚昊作曲

あいさつ
讃美歌 讃美歌 21/223番
開会の祈り
交読詩篇 詩編 56篇 9~14節

【み言葉の礼拝】

聖書
+創世記 4章 1~12節 (旧P.5)
+詩編 65篇 9~14節 (旧P.897)
応答唱 讃美歌 21/46番
教話 井上隆晶牧師
『献げ物の意味』

使徒信条

【聖餐礼拝】

奉献 讃美歌 21/81番
教会の祈り(連禱)
平和の挨拶
讃美歌 讃美歌 21/83番
主のいのり
陪餐

【応答と派遣と祝福】

讃美歌 讃美歌 21/386番
感謝の献物
お米の祝福
栄光の讃美 讃美歌 21/24番
派遣の言葉 井上隆晶牧師
祝福の祈り
後奏(黙禱)
「われらの神 くすしき主よ」
(讃美歌 21の 224番)
H.A.メッツガー作曲

【本日の礼拝奉仕者】

司式補佐 黒澤なおみ
奏楽 飯田雅子
献金当番 山千代憲一
受付当番 澤田昌人

【本日の予定】

◇教会学校(朝 9時30分)
・お話し: 黒澤 巖
◇讃美歌練習(礼拝後)
◇教会学校教師会(礼拝後)

【今週の教会での集会のご案内】

◇朝の祈り
・11月28日(火) 朝9時
・12月1日(金) 朝9時
◇英会話グループ
・11月30日(木) 午後7時30分

【次週主日 12月3日のご案内】

◇教会学校礼拝(午前9時30分)
・お話し: 小坪英恵
◇主日朝礼拝(午前10時30分)
・聖書
+イザヤ 11:1~10 (旧.1078)
+ルカ 1:13~20 (新P.99)
・教話 井上隆晶牧師
『切り株から出た若枝』
・讃美歌 21 229、46、248
・交読詩篇 詩編 57:6~12
・司式補佐 屋宮英男
・奏楽 鹿野幸枝
・献金当番 ウィル・P
・受付当番 勝見 仁
◇讃美歌練習(礼拝後)
◇定例役員会(午後1時)

聖句

「カインは土の實りを主のもとに献げ物として持って来た。アベルは羊の群れの中から肥えた初子を持って来た。」

(創世記 4章 3~4節)

【諸報告・個人消息】

①今週の井上牧師の予定: 27日(月) 午後1時30分「近畿宗教連盟総会(京都北野天満宮)」、29日(水) 午後1時30分「シャロン千里礼拝」1日(金) 午前9時40分「大宮保育園園児の会お話」、2日(土) 午後1時「大阪YWCAクリスマスバザー」

②《11月の行事・集会のお知らせ》

■11月26日(日)「収穫感謝祭」、「教会学校教師会」。収穫感謝祭後の鍋会は中止とします。今年は「都島こども食堂」に収穫物を寄贈することになりました。各ご家庭からお米、お菓子、絵本をご持参下さり、礼拝堂前の白い棚に献げてください。

■11月29日(水) 午後1時30分「シャロン千里礼拝」

③12月2日(土) 午後1時~4時まで大阪YWCAクリスマスバザーに都島教会が出店します。古着以外の寄贈品を募集しています。ご協力下さい。

④謝恩日献金(引退教師のため)は11月末まで受け付けます。

⑤【先週の集会統計】

日	集会	男子	女子	大人	計	礼拝献金
19	CS礼拝	-	1	7	8	¥2,901
	集会	男	女	子ども	計	礼拝献金
19	朝の礼拝	10	13	2	25	¥18,672
21	朝の祈り	4	4	-	8	
24	朝の祈り	2	2	-	4	

⑥【11/19の献金報告】

[月定] 小坪英恵(計5,000円) [建築] 小坪英恵(計500円) [互助] 屋宮英男、小淵公子、小淵賀裕、畑季史子、畑真理奈、山千代憲一(計6,000円)

※皆様の献金に感謝します。

※11/5の献金報告で「誕生日感謝」山千代憲一(計5,000円)となっておりましたが、正しくは(計50,000円)でした。お詫びし訂正致します。

【先週の説教要旨の続き】

ある奇跡の話を知りました。キリエとブリエーレという名前の双子の赤ちゃんが産まれたのですが、二人とも未熟児でした。ブリエーレは、呼吸が不規則で心臓の病をかかえていて体重もなかなか増えない病弱児でした。それで、医師や看護師はさまざまな治療を施すのですが、なかなか良くなりません。ある時、一人の看護師が二人と一緒に寝かせてはどうかと提案して、そのようにしてみたのです。そうすると、自然に元気な方のキリエがそっとブリエーレの肩に手を回すようになったのです。まるでブリエーレを抱きかかえるようになります。そうすると、何とブリエーレの病状が回復し始めたのです。ブリエーレの呼吸が安定しだして、体重もすこずつ増えていきました。そして数か月後には二人とも退院して、その後も健康に暮らしているそうです。私はこの話を聞いて、旧約聖書の中に出てくる死んだ子供を生き返らせたエリシャとエリヤの奇跡の話を思い出しました。彼らは自分の体を死んだ子の上に重ねました。この独特な癒し方には意味があるのです。それは主イエス様が私たちになされたことのひな形として書かれているのです。すなわち、主イエス様が私たちと、ご自身の体を重ね合わせて一体にすることによって私たちを生かしたのです。難病や重度の障害をもって生まれた子どもは親が引き取らず施設に入れられる子が多いのです。ある病院の奥に誰も会いに来てくれない重度の障害を持って生まれた女の子の赤ちゃんが置き去りにされていました。松原宏樹先生はその子を引き取り、自分の子にされました。キリストは私たちを見捨てることなく、「私が引き取ります。私がその人の責任を負います。」と言ってくださったのです。私たちの罪の責任を負って十字架に登り、三日目に復活して人類を再興してくださいました。誰も足を止めてくれなかった私に目を留め、御自分の子、神の子にしてくださいました。それを覚えて感謝したいと思います。